JTB総合研究所 レポート

データで見る訪日インバウンド市場トレンド2020

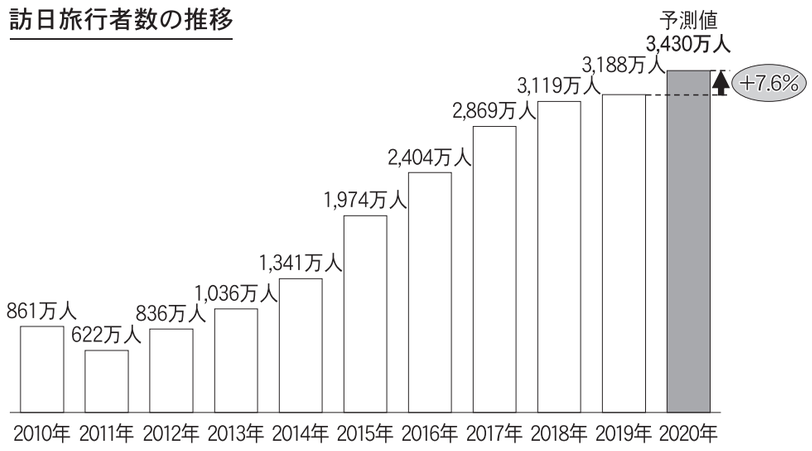
JTB総合研究所は2月20日、訪日旅行マーケットの最新動向をまとめたレポート「データで見る訪日インバウンド市場トレンド2020」を同社ホームページ上で公開した。同レポートから、2020年の訪日旅行者数の予測と、主要6市場（中国、韓国、台湾、香港、タイ、欧米豪）別、国内11地域（北海道、東北、関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄）別の現状と今後の見通しを紹介する。

前年比7.6％増の3430万人と予測

2010年からの「訪日旅行者の推移」は左のグラフの通り。19年の訪日旅行者は3188万人となった。下期に韓国が激減したことで前年比2・2％増と低い伸び率にとどまったが、韓国を除く市場は前年比11・2％増と2桁台の成長を維持した。

20年の予測値は前年比7・6％増の3430万人。羽田、成田の空港容量拡大で国際線座席数が増加、これが訪日需要をけん引するものと期待される。その一方で訪日旅行者数の7割強を占めるアジアからの旅行需要がピークとなる7～9月期に東京オリンピックが開催されるため、ある程度のマイナスは避けられないと予測する織り込まれていない。「主要市場別動向」と「地域別市場動向」は下の表の通り。

訪日旅行者数の推移



主要市場別動向　2020年上期

市場	現状と今後3カ月の見通し	規模 2019暦年ベース（2019年1月～2019年12月累計）		成長率 2019暦年ベース（2019年1月～2019年12月累計）		アジア諸国との競合状況	今後3カ月の見通し
中国	アジア主要国への旅行者数が加速に反転、訪日もこれに乗って加速している 今後は新型肺炎の感染拡大で大幅減が避けられない情勢	訪日旅行者数 訪アジア旅行者数 訪日のシェア	959万人 10,118万人 9.5%	訪日旅行者数 訪アジア旅行者数 訪日のシェア	+14.5%（加速） +7.3%（加速） +0.5%ポイント	日本、タイ、ベトナムが加速 韓国の伸び率は依然高水準だが減速しつつある	2019冬スケジュールの座席数が大幅に増えたことで訪日も大きな伸びが期待されていたが、新型肺炎の影響で大幅減が避けられない情勢
韓国	訪日は激減、反転の時期が見通せない状況が続き、需要はフィリピンなどに流出している 今後はマイナス幅が若干減少する見通しだが、需要回復のペースは不透明	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	558万人 2,927万人 19.1%	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	▲25.9%（減速） +3.0%（減速） ▲3.7%ポイント	日本と香港が急減速 対照的に加速しているのはフィリピン ベトナムの伸び率は高水準だが減速しつつある	座席数の減少は2019年Q4で底を打ったとみられ、訪日のマイナス幅も若干縮小する
台湾	海外旅行者数が減速しつつあり、ベトナムを除く主な競合国がそろって横ばいか減速で推移しているが、訪日は前年の反動もあって加速に転じた 今後も底堅く増加を続ける見通し	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	489万人 1,697万人 28.8%	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	+2.8%（加速） +2.5%（減速） ▲0.7%ポイント	日本は前年の反動要素もあって加速に反転 伸び率トップのベトナムも加速が続くが、その他の競合国は横ばいか減速傾向	訪日は底堅く増加を続け、訪日シェアも上向いてくる
香港	海外旅行者数が減速しつつあり主な競合国もそろって減速しているが、訪日は前年の反動もあって加速に転じた 今後は伸び率が減速してくる見通し	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	229万人 1,280万人 17.9%	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	+3.8%（加速） ▲1.8%（減速） ▲0.4%ポイント	競合各国がそろって減速 日本は前年の反動要素もあり加速に反転	訪日の伸び率は減速してくるが、海外旅行者数全体が減速しているため訪日シェアは持ち直してくる
タイ	アジア主要国への旅行者数が減速しており、主な競合国はそろって減速しているが、訪日は加速に転じた 今後、訪日の伸びは減速してくる見通し	訪日旅行者数 訪アジア旅行者数 訪日のシェア	132万人 637万人 20.7%	訪日旅行者数 海外旅行者数 訪日のシェア	+16.5%（加速） +7.1%（減速） +0.7%ポイント	日本の伸び率は競合国を大きく引き離しトップでなお加速中 競合国はいずれも減速傾向	訪日の伸びは減速してくるが海外旅行全体が、減速しているため訪日シェアは上昇が続く
欧米豪	アジア主要国への旅行者数が減速しており主な競合国は減速か横ばいで推移しているが訪日は加速を続けている 今後、訪日は加速を続けるものと期待されるがアジアで広がる新型肺炎がブレーキとならないか懸念される	訪日旅行者数 訪アジア旅行者数 訪日のシェア	413万人 3,346万人 13.4%	訪日旅行者数 訪アジア旅行者数 訪日のシェア	+13.9%（加速） +4.1%（減速） +0.9%ポイント	日本の伸び率が引き続きトップで加速中 競合国はいずれも減速か横ばい	訪日の伸びは加速を続けるものと期待されるが、アジアで広がる新型肺炎がブレーキとならないか懸念される

（注）今後3カ月の見通しは域内空港の国際線座席数の推移などをもとに予測したもの。訪日旅行者数は2019年計だが、各市場の海外旅行者数、訪日のシェアは2019年9月時点の12カ月累計値。
（注）欧米豪とは英国、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、ロシア、米国、カナダ、豪州の9カ国。

地域別市場動向　2020年上期

地域	域内延宿泊者数＊の現状と今後3カ月見通し ＊外国人宿泊者数	市場別動向 中国 現状	中国 今後3カ月の見通し	韓国 現状	韓国 今後3カ月の見通し	台湾 現状	台湾 今後3カ月の見通し	香港 現状	香港 今後3カ月の見通し	欧米豪 現状	欧米豪 今後3カ月の見通し
北海道	現状は韓国の急減に加え、台湾、香港も前年の水準まで需要が回復せず、前年比減が続く 今後は中国が減少に転じるためトータルの需要は前年比減が続く見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	減少	横ばい	減少	減少が続く	－	－
東北	現状は台湾や欧米豪の伸びに支えられ、トータルの需要は大幅な伸びが続いている 今後は中国、香港などが減少に転じるため伸びが鈍化する見通し	増加	減少に転じる	－	－	大幅な増加	増加が続く	大幅な増加	減少に転じる	大幅な増加	－
関東	現状は韓国、台湾などが減少する一方で中国、欧米豪の増加でトータルの需要は緩やかな増加を維持している 今後は中国が減少に転じるためトータルの需要も減少に転じる見通し	増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	大幅な減少	下げ止まる	－	－	大幅な増加	増加が続く
甲信越	現状は中国、欧米豪、香港などのけん引でトータルの需要は大幅な増加が続いている	大幅な増加	－	－	－	踊り場	－	大幅な増加	－	大幅な増加	－
北陸	現状は台湾、欧米豪、中国などの需要が伸び、トータルの需要は大幅な増加となっている 今後は中国、香港などが減少に転じるため、トータルの需要増も鈍化する見通し	大幅な増加	減少に転じる	－	－	大幅な増加	増加が続く	大幅な増加	減少に転じる	大幅な増加	－
東海	現状は中国の伸びで大幅な増加となっている 今後は中国が減少に転じることでトータルの需要も減少に転じる見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	大幅な増加	増加が続く	－	－	大幅な増加	増加が続く
近畿	現状は中国、欧米豪などの伸びで大幅な増加が続いている 今後は欧米豪などの増加が下支えするが、中国が減少に転じ韓国の減少が続くためトータルの需要も伸びが鈍る見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	増加	伸び止まり	－	－	大幅な増加	増加が続く
中国	現状は欧米豪や中国の伸びでトータルの需要も大幅な伸びとなっている 今後は中国が減少に転じ韓国の減少も続くためトータルの需要も伸びが鈍る見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	減少	下げ止まる	－	－	大幅な増加	－
四国	現状は台湾、中国、香港の伸びでトータルの需要も大幅な伸びとなっている 今後は中国が減少に転じ韓国の減少も続くためトータルの需要も伸びが鈍る見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	大幅な増加	増加が続く	大幅な増加	増加が続く	－	－
九州	現状は韓国の急減でトータルの需要も大幅に減少している 今後は中国が減少に転じ韓国の減少も続くためトータルの需要も減少が続く見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	増加	増加が続く	横ばい	増加に転じる	－	－
沖縄	現状は韓国の急減でトータルの需要も緩やかに減少 今後は中国が減少に転じ韓国の減少も続くためトータルの需要も減少が続く見通し	大幅な増加	減少に転じる	大幅な減少	減少が続く	増加	伸び止まり	大幅な増加	増加が続く	－	－

（注）市場別動向は上位4市場について記載している。
（注）今後3カ月の見通しは域内空港の国際線座席数の推移などをもとに予測したもの。
（注）甲信越については陸路で流入する旅行者数が圧倒的で域内空港の座席数推移をもとに見通しを判断することが困難であるため見通しを記載していない。
同様に北陸の香港市場についても域内空港への直行便乗り入れがないため見通し判断をしていない。

大幅な増加　年率10%を超える増加が続いている
増加　年率3～10%の増加が続いている
緩やかな増加　年率3%未満の増加が続いている
伸び止まり　増加から横ばい、もしくは減少に変化している
踊り場　直近の半年は横ばいだがそれ以前は増加もしくは減少していた
横ばい　過去半年以上にわたって増加も減少もしていない
下げ止まり　減少から横ばい、もしくは増加に変化している
緩やかな減少　年率3%未満の減少が続いている
減少　年率3～10%の減少が続いている
大幅な減少　年率10%を超える減少が続いている